

星状神経節ブロック説明書

当院では顔面・頭部・上肢の痛み、循環障害等の治療に「星状神経節ブロック」という方法を取り入れています。治療に際しましては十分な説明の後、自由意志による同意を得たうえで実施します。医師の説明に納得し、診療行為の実施に同意されるときのみ同意書に署名下さい。なお、同意を拒否されても、または実施直前までに同意を撤回されても、診療上不利益を受ける事はありません。

目的：

星状神経節ブロックとは主に顔面・頭部・上肢等の痛み、循環障害の緩和、又は自律神経の調節を目的として実施されます。この方法では頸部の交感神経近傍に局所麻酔薬（歯医者等で使われる痛み止めの注射薬と同じ）を注射し、一時的に交感神経を遮断する事によって血行を良くする等の効果にて症状の改善を目的とします。

治療の実際：

治療台に仰向けに寝て、顎を少し上げ、首を十分に露出した姿勢をとって頂きます。皮膚の消毒後、医師が指で注射する位置を確認しながら注射します。使用する針は細いので痛みは余り感じませんが薬が注入される際に圧迫感を感じる事があります。注射が行われている間は唾を飲み込んだり、声を出したりしないで下さい。もし医師に何か伝えたい場合は反対側の手をあげて下さい。局所麻酔薬の注入が終わると、針を抜き、注射した部位をガーゼで5～7分ほど圧迫します。20～30分程安静にして、異常がなければ帰宅出来ます。

効果：

交感神経の遮断により次の症状が現われることがあります：顔、手が暖かくなる、瞼が重くなり眼が充血する、鼻がつまる、声がかすれる、のどがつまる、手がしびれる・力が入らない。いずれの症状も一時的で1～2時間でもとに戻ります。声がかすれたり喉がつまるような感じがある時には無理に咳などはせず、声が戻るまで飲食は控えて下さい。ブロックは状態により毎日または週に2～3回行い、合計5回～30回以上必要な場合もあります。

合併症：

一般的には安全な治療で、重度の合併症は非常に稀ですが、次のような可能性があります：アレルギー反応、頸部出血・血腫、動脈内注入によるけいれん、くも膜下・硬膜外への薬剤の広がり等。

代替手段：

ブロック以外の方法としては 1) 経過観察 2) のみ薬 3) 外用薬 4) 理学療法 5) 手術 またそれ以外の方法も考えられます。